

# 児童養護施設ゆりかご園心理療法棟 〈父性と母性を木構造空間に託した心の建築〉

正会員 ○連健夫\*

# Psychotherapy Space of Nursing Home for Children/Yurikago-en

〈Wooden Structure entrusted with feeling of Father and Motherhood〉

○ MURAJI Takeo\*

\* (有) 連健夫建築研究室 AA 大学院優等学位、工学修士

\* Muraji Takeo Architectural Laboratory, AA Grad.Hons.Dipl.ME

■ **建築概要**：児童養護施設の心理療法棟の建替えである。心に様々な問題を抱えている子供達に対し、臨床心理士がカウンセリングやプレイセラピーなどを行う場として、更には 語り部の会や里親の説明会など多目的に利用できる場として計画された。子供達にとって安心して親密感のある施設をつくるべく、子供達が設計のプロセスや施工にも参加できる機会を作った。木の優しさと力強さを表現すべく木構造とし、父性を大黒柱に託し、母性を 24 角形の囲まれた木質空間に託した建築を創り出した。



建物外観：コラージュから得たデザインキーワード、円盤、飛翔、ロボットなどから生まれた形  
外壁の赤色は投票によって決めた



建物内観：父性を託した丸太柱を中心に放射状に梁を架け、24 角形の囲まれた空間を創り母性を託す  
柱の下には畳コーナー、上部にはアジトスペースを配した

■ **子供達の参加**：「建物づくりは人づくり」を合言葉に、子供達が参加できる機会として、設計段階においては、「コラージュづくりワークショップ」を実施し、そこからデザインキーワードを抽出し、コンセプトやデザインの手がかりとした。粘土で作ったコンセプト模型と説明書を展示することにより、コラージュから形が生まれたことを子供達に伝えた。施工時においては、各段階において「床の墨入れ」→「壁に断熱材代わりの古新聞詰め」→「床と壁に桐油の塗装」→「建物周囲に雨跳ね防止の古瓦並べ」→「デッキの塗装」のワークショップを実施した。参加者は楽しんで作業を行い、創る喜びを感じたようであった。また、建物の色を投票で決めることや地鎮祭や上棟式、竣工式に参加させ、儀式を学ばせる共に自分達の施設であることが感じられるよう配慮した。

■ **コラージュづくりワークショップと読み取り**：新しい心理療法棟への夢を託し、雑誌などから写真や絵を切り貼りするコラージュづくりのワークショップを行った。この中で変身願望や宇宙や旅行、ロボットなど、夢や力強さなどポジティブなイメージが感じられる一方、顔の貼替や、目を隠すイメージなど精神的な不安定も感じられた。設計においてはポジティブなイメージを反映させると共に、安心感を与える空間をつくることが求められた。

■ **設計の意図**：外観として、飛翔やロボット、円盤などのイメージが感じられる形を考慮した。内部としては、安心感を与えるべく、父性を丸太柱に託し、母性を 24 角形の囲まれた空間に託した。全体を木構造にすることにより、木の優しさと共に力強さを表現したいと考えた。プランは多目的スペースを中心に各スペースが取り囲むコンパクトな形とした。丸太柱は時間が経つと剥がれる皮付き丸太であるが、歳を経ることの変化が感じられることも大切との思いから採用した。

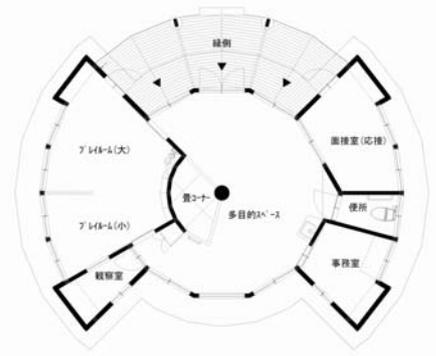
■ **丸太柱を中心とした木構造**：丸太柱は建物の中心に配し、梁が放射状に架かる構造とした。24 角形平面を支える梁は中心に向かう途中で 12 本となり、それが丸太柱に取り付け架構とした。従って丸太柱には径が求められ、末口で 400、元口で 500 とした。この太さは十分に力強い父性を感じることができる。スタッフの知合いから寄贈されたケヤキを用いた。留め方は、丸太柱にホゾを切り、梁を周囲から差し込み、抜けぬよう上部からプレート金物とコーチスクリューで堅結した。



コラージュづくりワークショップ：  
男女のグループに分かれ夢を作る



子供たちが作成したコラージュ：変身願望、ロボットや旅行などの  
ポジティブなイメージがある一方、精神的不安も感じられる



多目的スペースを中心に、各部屋が取り囲むプラン

所在地：神奈川県小田原市酒匂 2-41-39

主な用途：児童養護施設

敷地面積：480.83 m<sup>2</sup>

建築面積：83.92 m<sup>2</sup>

延床面積：75.56 m<sup>2</sup>

キーワード：児童養護施設、参加のデザイン、父性と母性、木構造

Location:2-41-39 Sakawa Odawara-shi Kanagawa

Main Use: Nursing Home for Children

Site Area: 480.83 m<sup>2</sup>

Building Floor Area: 83.92 m<sup>2</sup>

Total Floor Area:75.56 m<sup>2</sup>

Keywords: Nursing Home for Children, User-Participation, Father and Motherhood, Wooden Structure



炭敷きワークショップ：床を張る前に炭を敷く



塗装ワークショップ：床と壁に桐油の塗装をする



新聞詰めワークショップ：壁に断熱材代わりに古新聞を詰める



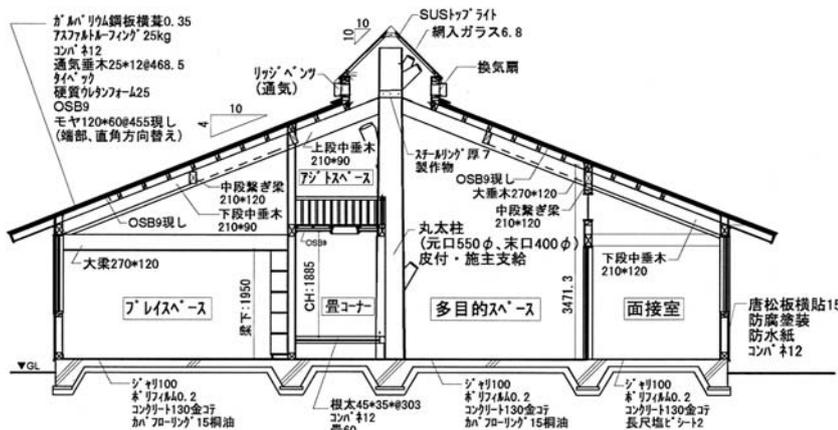
上棟式：子供たちが棟に上がり、皆にお菓子を投げる



12本の梁が丸太柱に取り付く

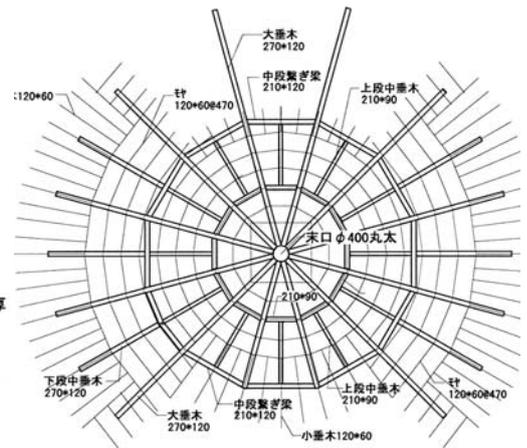


下から見えぬ位置に金物で梁を留める



矩形図：中央の丸太柱が全体の垂木を受けた構造。

外からトップライトを通して丸太の先がみえるように長さを決めた



小屋伏図：400φの丸太柱から放射状に梁を架ける

■子供へのアンケート調査：建設後、半年経過した2007年12月～2008年1月にアンケート調査を行った。(全人数31名：小1～3年10名、小4～6年6名、中高生15名の内、小学校は全員が回答、中高生からは11名の回答が得られ回収率は88.5%である) ①「どれをやりましたか」の質問に対しては「コーラージュづくり」に半数が参加し、他の企画には4分の3と多くの子供達が参加していた。②「どのワークショップが楽しかったですか」の質問に対しては「床や壁塗り」が41%と一番多く、「床の炭入れ」が19%であった。難しい作業でないことが楽しさの一因とも考えられる。③「なぜ楽しかったのですか」の質問については「初めてだったから」が一番多く61%、次に「建物作りに参加したから」が41%、「皆と一緒にしたから」が38%、「願いがかなうようだったから」が32%であり、体験の面白さや参加の喜び、願いの実現などが楽しさの理由となっている。④「コーラージュづくりの想いがコスモス(建物の愛称)になった気がしますか」の質問については、52%が「なった」と答えている。「分からない」が36%、「なったと思わない」がわずか5%であり、コーラージュづくりと建物との関係について子供たちが意識していることが理解できる。⑤「コスモスは好きですか」の質問について、54%の子供が「とても好き」及び「好き」と答えており好感を持っている。⑥「どこが好きですか」の質問については、1番が「2階のアジトスペース」で58%、次に「プレイルーム」で54%、「形」が51%、「色」が38%、「柱」が35%で、形や丸太柱を含む構造にも魅力を感じている子供が3分の1いることが理解できる。⑦「コスモスづくりに参加して何か感じたり考えたりしましたか」の質問に対しては、「大工さんはすごいと思った」が54%と一番多く、次に「塗装するのが楽しいのが分かった」51%、「何でも参加すると面白いと思った」48%であり、参加ことにより大工の仕事に興味が生まれたこと、体験することの楽しさや意味が感じられたことが伺える。

「こすもす」建設についてのアンケート
大工さんや皆さんの協力によって「こすもす」が建てられました。皆さんが、コーラージュづくりや壁塗りに参加して、どのように感じたかを振り返りたくてアンケートをします。次の質問にご答えください。

子供たちに行ったアンケート用紙